

小学校 最優秀賞



「七年間ピアノをやり続けてみて」

綿内小学校 五年 玉川 由依 さん

私は年少のころからピアノを続けてきました。そこで学んだことは、やめたい、やりたくないと思っても立ち止まらずがんばって続けていけば、ぜったいに成功する、前よりももっとがんばれるということを知りました。

なぜそう思ったかということ、私は昔ピアノをひくことがいやになって一音もひかない、ひけないときがありました。そのときは発表会の一週間ほど前でした。そのときの私は、このままでは発表会ではられないと思い、練習をさいかいしました。すると、ピアノをひくたびに気持ちが晴れていきどんどん楽しくなってきました。そして、発表会になり、大勢の人の前でピアノを発表するときにきました。心ぞうが飛び出しそうなくらいドキドキしながらステージの上でえんそうしました。すると今までの中で一番いいえんそうになりました。えんそうが終わると、先生やお家の人にたくさんほめてもらえました。そのとき私はピアノをさいかいして良かった、こんなにうれしくて楽しいことがあるんだと思いました。

ピアノをやり続けて良かったと思うことはもう一つあります。それは、私のえんそうで人の心を動かしたことです。私の発表会のえんそうを聞いて、ピアノの先生の知りあいが、この曲をひいてみようと思ったそうです。私はその話を聞いたとき、ずっと努力してきた良かった、あの時あきらめないで良かったと思いました。あの時

にあきらめていけば、たった一人でもその人の心は動かなかったけど私があきらめないでがんばってひいた曲だからこそ一人でも心にひびいたんだなと思いました。やっぱりあきらめず、がんばって続けると良いことがある、でも良いことがある前にはいやになることもあるけど、それをのりこえると必ず良いことがあると知りました。

ピアノでこれからも人の心にひびくようなきれいなえんそうにするために私が、がんばっていきたいことがあります。

それは、あきらめないことです。曲が、むずかしかったり楽ふがふくざつで読みづらいということもあるかもしれないけど、いっぱいピアノを練習したり、音ぷをすばやくよむ練習をしたりしたいです。むずかしくてもあきらめずにちょうせんしつづけていると絶対にゴールまでたどりつけると思っているので、あきらめず全力でちょうせんし続けたいです。

これからも、くじけずに練習し続けて、むずかしいこともどんどんちょうせんしてどんどん色んな曲をひいていけたらなと思います。

中学校 最優秀賞



「笑顔の秘訣」

犀陵中学校 三年 今村 日咲 さん

私たちは日々の生活の中で、家族が存在することを当たり前のように感じているかもしれません。

家族は最も身近でとても大切な存在です。家族は私たちを育ててくれたり、励ましてくれたりします。家族は私の幸せを願ってくれる大事な人です。

ですが、私は両親にたまに強く八ツ当たりしてしまうときがあります。頭の中ではだめだとわかっていても言いたくもない言葉が口に出てしまいます。謝りたいのに勇気が出ず時間がどんどん過ぎていくばかりでした。その時、姉や妹が「大丈夫、一緒に謝りに行こう」とそっと背中を押してくれました。勇気を振り絞り謝りに行くと、両親は優しい言葉を掛けてくれます。私の気持ちに寄り添ってくれました。たくさん怒られました。両親の言葉によって気づかされ、両親を絶対に傷つけないよう八つ当たりをしないと心に決めました。

中学三年生になり、進路について悩んでいるときも、自分のことのように一緒に悩んでくれました。父は「自分の好きなように、したいことをしたらいい」と言葉を掛けてくれました。その言葉がすごく嬉しくて涙が出そうになりました。

三年生の一学期、大事な時期のテストでたくさん勉強したのにもかかわらず、その成果が現れず悔しく落ち込んでいて、家族にこの点数を見せることをためらっていました。三者懇談がありテストを見せなければいけないため、思い切って家族にテストの点数を見せました。すると「頑張ったね」と励ましてくれたり、私の苦手科目を重点的に教えたりしてくれました。本当にホッとしました。しかし総合テストや受験でもこのような結末にはなりたくないのです。本気で勉強します。

上手く行かなくて泣きたいときは話を聞いて励ましてくれたり、上手く行ったときは一緒に喜んでくれたりする家族には感謝の気持ちでいっぱいです。

いつも栄養ばっちりな美味しいご飯を作ってくれたり、笑顔を絶やさず家族みんなを明るい気持ちにしてくれたりするお母さん、家

族を暖かく迎えてくれる「おかえりなさい」の一言は私たち家族を安心させてくれます。私たちの体調に気を使ってくれる母には感謝の気持ちでいっぱいです。

小学生の頃、時計の読み方が分からず父に相談してみました。すると自分の仕事より私の勉強を優先してくれて、私が理解できるまで何日も時間をかけて教えてくれました。その時は何回やっても分からず辛かったけれど、今思うと父のおかげで時間の流れを感じることができたと思います。父には食事のマナーやお箸の持ち方も厳しく教えてもらいました。食べる時は音を立てずに食べること。そんな基本的なことが私にはできていませんでした。しかし父は誰かと食事をしている時、恥ずかしい思いをしないようにと教えてくれました。そのおかげで今は食事中のマナーを実践できるようになりました。父は家族のために朝早くから夜遅くまで一生懸命働いてくれていて、いつも私の欲しい言葉を掛けてくれる優しい人です。

たまに喧嘩をしてしまうこともあるけれどいつも悩みを聞いてくれて、私や妹の機嫌が悪い時にも一番に気づき駆けつけて、私の心の中で思っていることを感じ取ったような行動をし笑顔を与えてくれる姉、悲しくて涙を流している時ハンカチを持ってきて涙を拭いてくれる、頑張りやさんの優しい妹、いつもみんなに支えられています。

お母さん、お父さんの子に生まれて、この毎日が本当に幸せです。